

令和5年度 第1回学校運営協議会議事録

1 期 日 令和5年6月9日（金）10：00～11：45

2 場 所 鹿児島商業高等学校 会議室

3 出席者

学校運営協議会委員（7名）

鹿児島国際大学准教授 鹿商同窓会長 鹿児島市福祉館長

鹿商PTA会長 PTA副会長（母親の会代表） 民間企業経営者2名

学校関係者（9名）

校長 教頭 事務長 教務主任 生徒指導主任 進路指導主任

保健主任 商業科主任 教務部（記録係）

4 会順及び協議題

- (1) 開会のことば
- (2) 委嘱状交付
- (3) 学校長あいさつ
- (4) 学校運営委員会について説明
- (5) 自己紹介
- (6) 協議

ア 学校経営等について（学校長説明）

イ 学校の概況説明

- (ア) 教務部
- (イ) 生徒指導部
- (ウ) 進路指導部
- (エ) 保健部
- (オ) 商業科

ウ 学校運営に関する基本的な方針の承認

- (7) 質疑応答・提言等
- (8) その他 事務連絡
- (9) 閉会のことば

5 協議の内容や意見等

○ 寮生は現在何名いるのか。

→ 紫雲寮27名、桜学寮36名。

○今後他県からも多く生徒が入学して来たらどうするのか。

→ 基本的に寮については、各部活で調整しながら生徒に説明するようにしている。下宿も探していく。

○教務部の説明に学力向上について書いてあるが、ツール（検定）だけではなく体験・探究も必要であると考え。学力向上についての方向性をどう考えるか。また、普通科高校と専門高校出身の学生では、相対的に専門高校出身の学生の方が、行動力があり教えがいがある。

地域との連携もしたほうがいい。ワードやエクセルはどの学校の子でもできる。パワーポイントやプレゼンの力をつけると今後にかせる。

全体的に学生の人間力が課題となっている。日本社会全体の責任だと思うが、そういう点を高大で共有して取り組めるといいのではないか。

→ 商業高校生として、まずツール(検定)を身につけさせるのが第一で、そのうえで探求型の学習をさせ、その後体験等に結び付けていきたい。

○来年度から新学科がスタートする予定だが、2・3年生はどうなるのか。

先生方の勉強も必要になる。出口を確保する努力も必要ではないか。中学校訪問の手ごたえはどうか。ポテンシャルのある学校だと思うのでそれを十分に引き出してほしい。

→ ある中学校では、女子にも聞かせたいと急遽男女を対象に説明となった。学科再編に興味を持っている。

2・3年生については、決められた教育課程だが、新たな学科については、女子が入ることにより化学反応が生まれ、多様な学びができるのではないかと考えている。

学校説明については、鹿女子と同時間で組まれていることも多く、女子に説明できたのは2～3校であるが手ごたえはいい。

○進学を目指すコースはないのか。

→ 商業科として、選択の中で難関資格にチャレンジしたり職業体験をしたりすることができ、それを進学につなげていきたい。

○学校名を変える可能性は。

→ 校名はそのままである。

○先生の異動でつながりが分断していくのを感じる。市立だからということで、長く勤務できるという形はとれないのか。

→ この会はそういった要望も出せる会なので、意見がまとまれば、市教

委に話を持っていくことは可能である。

○自分たちの時代は、倍率が県内1番で学校の活躍を目にする機会も多かった。今ならではのSNSを使い鹿商の文字が目に触れる機会をどんどん増やしたほうがいいのではないか。そういう発信力をつけることを学校教育の中にも取り組んでいければいいのではないか。

○たしかに、SNSが大事な時代。責任者を置いてブランディングをしっかりと情報発信することが大事である。横断幕にかけるお金をデジタルサイネージなどにも使ってもっと伝わるようにする努力をしてほしい。

→ 横断幕の場所などいろいろ検討するが、設置許可の関係などで難しい面もある。いい案があれば教えてほしい。

○大学・企業等の話を聞いて、これだけ鹿商のことを考えてくださっているとすることを保護者としても子どもに伝えないといけないと思う。

共学になると合格ラインが上がり、部活をさせたいが入学が難しくなると心配している保護者もいる。そういう鹿商に行きたい、行かせたいという気持ちをもった生徒が他校に流れないか心配もある。推薦をお願いしても中学校で断られるという話を聞く。高校側からこのことについてはお願いできないのか。また、2・3年生はバイク通学や共学化で環境の変化に戸惑うだろうと思い、保護者として不安がある。生徒に寄り添いながら、個に応じた指導をお願いしたい。

→ 入試については、現在定員の半分ほどなので男女ともに入学できる余地はあると考えている。推薦入試は、あくまでも中学校側が生徒を推薦するものであるが、自己推薦制度の導入も県として検討はしているようだ。

バイク通学についてはバスの減便などがあり仕方のない面がある。また、生徒の不安については、今年のうち職員研修等を行い、サポートする体制づくりも考えている。生徒指導については、文科省が出している生徒指導の指針「生徒指導提要」に沿って行わなければならない。これまでの指導を継続し、生徒の自己指導力の育成に努めたい。

○必要な時は保護者がその役目を負うべきだということが分かった。そういった部分も学校と連携をとっていきたい。

○校歌は変わるのか。

→ 変わらない。伝統はしっかりと残したい。

○鹿実はうまく共学化になった。そういう例も参考にしながらうまく進めてほしい。

○女子トイレ等は間に合うのか。

→ 市と話をして準備を進めている。

○女子は何人くらいを想定しているのか。

→ 定員の半数程度を見込んでいる。

○女子の部活の場所はあるのか。

→ 全部は難しい。女子の受け入れについて調査中だができるだけ多く実施でききるようにしたい。

○体育館の改修などは。

→ まずは1倍を超えて、必要な学校と思ってもらうことが大事と考える。

○鹿女子と生徒の取り合いになるのでは。

→ 鹿女子は女子教育の学校であり、そういった希望を持つ生徒にとっての進学先になっている。現在でも充実した教育が行われており、それを活かして学科再編などを検討されていると思う。

○女子が増えてバスは大丈夫か。通学手段は何があるのか。スクールバスは検討しないのか。

→ 市にお願いしたが、鹿商のためだけにスクールバスを出すことは出来ないとされた。通学方法は、バス・電車（市電、JR）・徒歩・自転車等がある。本年度からバイク通学の許可に踏み切った。